

鹿島田地区における住民・多国籍外国人共存の地域形成に資する複合施設計画

BR14013 池田 拓朗
指導教員 鈴木 俊治

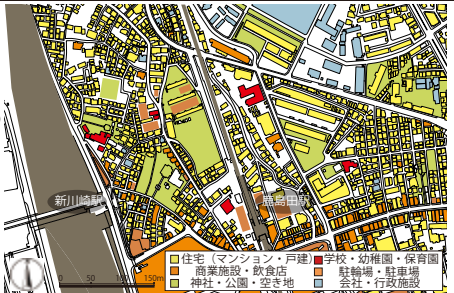


1 研究の背景と目的

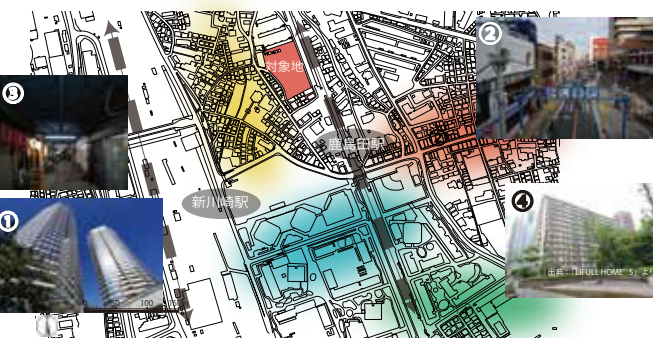
現在日本では、人材不足とそれを補う為の外国人労働者に関する問題(日本人の被害・外国人の被害双方)が大きな社会問題となっている。そこで、外国人共存を掲げ都市整備が計画されている川崎市鹿島田・新川崎地区に着目し、住民や多国籍の外国人など多様な人々が利用出来る複合施設を計画し、上記の問題解決に資することを目的とする。

2 対象地 一川崎市幸区1・2丁目一

鹿島田・新川崎地区は川崎市を構成する7区のうち南東部にある幸区に位置する。また、東武沿線では連続立体交差工事が進められ利便性の向上によるまちの発展が期待される。対象地は新川崎駅と鹿島田駅の間にある1haの土地で、かつては工場が立地し現在は更地となっている。2つの駅の直線距離は約250mで多くの人が行き交う。



3 計画地周辺の現況



①再開発エリア:工場跡地が新川崎三井ビル・新川崎スクエアに変わり、企業や住宅を取り入れている。新川崎駅と鹿島田駅を繋ぐペDESTリアンデッキも広がっている。

②鹿島田駅東側:鹿島田駅前商店街が駅から400m続いている。日中は人が混み合い自転車利用者も多い。

③住宅街マーケット/未再開発エリア:道が狭く入り組んでいる。神社や公園があるが活気は少なく感じる。西口マーケットがあり、飲み屋が建ち並ぶ。

④団地エリア(パークシティ)
工場跡地にオフィス2棟・マンション9棟が建設された。周辺には高層マンションがあるが、緑が豊かで公園が設置されている。子連れの親がよく見られる。

3 人口推移

川崎市の人口(グラフ①)は右肩上がりであり外国人人口(グラフ②)も同様に2012年に一度減少するが、全体的に右肩上がりである。一方、幸区の人口は(グラフ③)横ばいに変化は見られないが、外国人人口(グラフ④)はH.21~H.24で約100人減少するが、その後毎年約200人の増加傾向にある。以上のこ

ことから幸区の外国人人口の割合が増えていることが分かる。

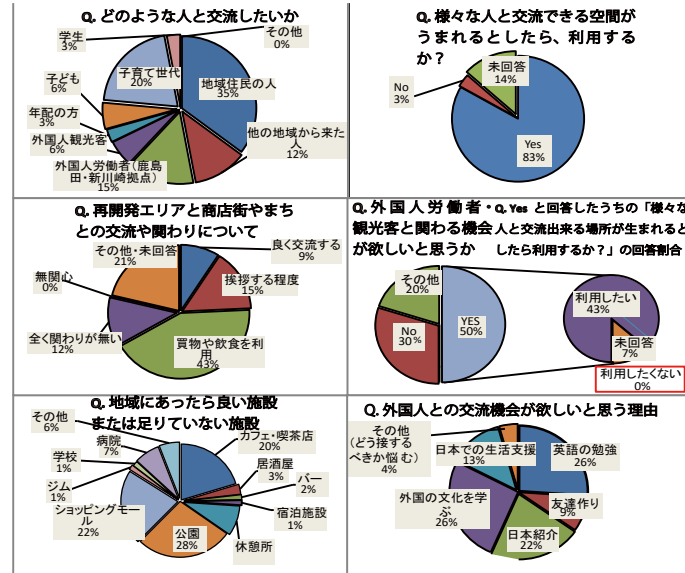


4 アンケート調査・現状の課題

実施日:2018年10月28日(日)/調査対象人数30人/

場所 幸区1丁目(対象地周辺)

目的:当地域における交流や必要な施設について利用者の意見を把握し、計画に反映する。



- ◆再開発地域と商店街やまちとの交流は「買い物や飲食の利用」と「全く関わりが無い」で5割以上を占めている。「よく交流する」と回答した人は僅か9%となった。
- ◆地域に足りていない空間では「公園休憩所」が1/3以上を占めている結果になった。その他には「飲食店」や「ショッピングモール」がそれぞれ20%以上の割合を占めた。
- ◆様々な人との交流空間があれば「利用したい」という回答は80%を超えた。交流の相手は、「地域住民」と「外国人観光客・労働者」がそれぞれ35%と21%とであった。
- ◆外国人との交流機会が欲しいと思う人約半数おりその理由としては外国の文化を学ぶ/英語の勉強/日本紹介」が20%以上挙げられた。

[考察]

◆人との交流やその空間に対する関心が高い。また、地域に不足している空間として公園、休憩所のふたつで過半を占めており、オープンスペースの不足が問題となっている。

5 問題提起

地域住民に対する課題点

- ①再開発地区と商店街や昔から住んでいる人の繋がりが少ない
- ②公園やフリースペースが少ない

外国人労働者・観光客に対する課題点

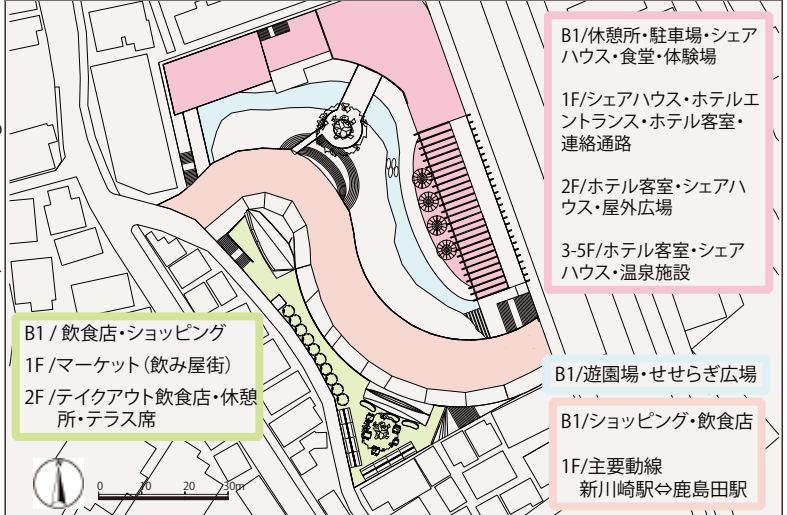
- ①言語理解と発信の難しさによるコミュニケーション不足
- ②居住地の確保（外国人労働者・観光客共に対する）

7 設計概要

計画は大きく分けて二つの利用者からアプローチし、一つは地域利用者・もう一つは観光客である。地域住民に対しては、コミュニケーションを重視し、公園やフリースペース・飲食店・ショッピングの利用できるように考える。更に様々な人と交流できるためにも、昔ながらの場所と再開発エリアを繋ぐ中間的空間をつくりたいと考えた。その為に主要動線を「現代らしさ＝新川崎周辺」と「昔ながら＝鹿島田商店街・マーケット」が交じり合うように曲線で表現した。更に、内部も西側の緑区域を鹿島田らしく表現し、東側の赤い部分は現代らしさを表現するようにガラスとコンクリートを多用し、幾何学的に統一された外観にまとまっている。

観光客に対しては鹿島田/新川崎へ訪れる入口として計画するように考慮し、マーケットなどのディープさやこれらの対比を感じてもらおうよう計画した。

配置図



8 パース

カメラ向き: 南側休憩所入口から南西方向 (2F)
休憩所ではゆっくりできることに重点を置いて設計した。一層部分では一人・二人掛けのソファを配置し、二層部分では床に直接座って休める空間を考えた。テイクアウト飲食店と併せて利用できる。



カメラ向き: 敷地最南端から北方向
B1にはせせらぎが流れており、子どもも遊ぶことができ、年配の方も景色を眺めることができる。建物はハイブリッド工法を利用し、ここでも現代らしさと木材の昔らしさ・日本らしさを融合させている。



カメラ向き: 敷地南から北方向 (1F)
鹿島田マーケットを連想させる空間。観光客が気軽に鹿島田の昔らしさや懐かしさを感じることができる。広場やホテルが見える外の空間とは全く違った雰囲気を感じることで鹿島田・新川崎の「今」を知ることができる。

9 総括

この空間が人々の憩いや会話が生まれる、生活の一部として利用されていく。これらの計画によって、地域住民だけでなく観光客など多様な人々が今後の鹿島田・新川崎に関わっていくだろう。